

みなとオアシスのトピックス

うばがみだいじんぐう と ぎよさい

姥神大神宮渡御祭を開催【みなとオアシス江差】

江差の8月は、江差町民にとって最も特別な月です。今年も8月9日(日)～11日(火)の3日間、町内13台の山車(通称:ヤマ)が供奉巡行する姥神大神宮の例祭が絢爛豪華に繰りひろげられました。

このお祭りは、今からおよそ370年前、江差の人々がニシンの大漁を神に報告し、感謝したのが始まりで、宝暦年間(1751～1764年)に作られた「神功山」という山車をはじめとする、武者人形、能楽人形、文楽人形、歌舞伎人形などを配した豪華な13台の山車が、吹き流しや錦の御旗をひるがえし、流暢な祇園囃子の調べにのって町内を練り歩きます。

毎年「祭り囃子コンクール」も開かれ、各山車の祭り囃子はいっそう熱がこもります。巡行中の笛や太鼓の祭り囃子もとてもにぎやかで、8人の白丁子がタイマツの火で参道をはき浄めるように駆け登り、それに続いて神輿も石段を駆け登る「宿入れ」は神輿が神社に戻る夜のハイライトで見る者、担ぐ者の熱気で溢れていました。

そしてこの祭り最大のクライマックスは、なんと言っても11日の本祭り最後の夜です。エンヤー、エンヤーの掛け声、力まかせの太鼓の響き、飛び跳ねる者など、沿道は人でぎっしりです。いつしか太鼓も乱れ打ちとなり、人々の熱気と歓喜は江差の夜空を衝き上げます。

北海道最古といわれる歴史と、はるか遠い昔の江差のニシン景気を現代に伝える3日間の熱狂の大祭でした。



祭り囃子の様子



山車供奉巡行の様子



「宿入れ」の様子



本祭り最後の夜